

関西・大阪 21 世紀協会の 事業計画

【I】助成と顕彰

（1）日本万国博覧会記念基金事業

国際相互理解の促進に資する活動や文化的活動に対して、日本万国博覧会記念基金は過去 46 年間に、総額 191 億円もの助成を行い多大な貢献をしてきた。今後も基金の保全と、助成事業の継続が基本的な使命である。

昨今の低金利による運用益の減少に対しては、1970 年大阪万博の原点である日本万国博「開催の意図」^[23]の趣旨に適った国際相互理解の促進に資する活動のうち、国際文化交流、国際親善に寄与する活動、教育・学術に関する国際的な活動に助成対象を絞り込むことで「万博助成ならでは」の独自性を発揮して行く。若い人材に思い切った投資を行い、後世にも評価されるような人材を育てる制度も新たに開始する。

あわせて、助成金贈呈式や助成事例発表会を定期的に行うことで、助成事業の「見える化」を進め、万博記念基金助成事業の存在感を高める。また、実地調査や事後評価を徹底し、助成の効果や妥当性を絶えず確認し、助成先の評価に反映していく。

（2）アーツサポート関西（ASK）

関西・大阪における寄付文化（タニマチ精神）の醸成と文化支援の安定財源の確保を目指し、民の寄付による文化支援を一層推進する。文化力を底上げするための効果的な助成を行うとともに、助成事業発表会や優秀事業表彰などを通じて、助成先とサポーター（寄付者）との交流の機会などを設け、アーツサポート関西の助成対象者への激励とサポーターの理解促進に努める。

さらに、次代を担うアーティストの発掘、育成はもとより、アーティストと鑑賞者を結びつけて鑑賞者の底辺を広げる文化コーディネーターの人材育成にも配慮する。

（3）人材育成—アーティスト支援—

大阪文化祭賞や関西元気文化圏賞に取り組む。関西・大阪において芸術文化などに優れた業績をあげた人やプロジェクトの表彰を行い、活動紹介の場を設けるなど広く社会に周知を図る。

助成と表彰による人材育成に加え、「アートストリーム」^[24]などのアーティストの表現の場の確保に努め、若手のアーティストやアールブリュット^[25]への機会の提供、留学生が文化活動に参加する取り組みなどを推進する。また、「はなやか関西」で提唱されているアーティスト・イン・レジデンス^[26]の推進を支援する。

日本が世界に貢献するためにもアーティストの役割は大きい。海外のアーティストが日本文化から刺激を受けた創作を世界に発信すれば、日本ブランドは一層高まることになるだろう。

【Ⅱ】 関西・大阪のブランドの発掘と発信

（１）文化庁、東京オリンピック・パラリンピック本部、関西広域連合等との連携と発信

関西各地の芸術文化情報を発信するインターネットウェブサイト「関西文化.com（関西広域連合、関西元気文化圏推進協議会）」や文化庁のポータルサイトに協力し、様々な文化関連サイトとリンクさせるなど、関西の芸術文化の戦略的な情報発信を推進する。特に、各地に伝わる祭礼やアールブリュット等の分野のポータルサイトを含めたウェブサイト開設を目指す。

（２）シンポジウムの開催等による発信

文化力の向上のためには不断の情報収集、分析、討論などを通して今後の方向性を考える必要がある。引続き、「関西・大阪文化力会議」やシンポジウムの開催を通じて未来を先導する提言を行う。

また、映像による関西の魅力発信やネットによる発信事業を強化するほか、各地の祭礼や歴史の調査と再発見（上町台地調査研究など）、歴史上の人物探訪（「なにわ大坂100人選」）などの事業を継続する。そのほか、住民が創造的に自らが発信者となって行う活動を支援し、主催や共催、後援などの形で創造都市にふさわしい事業を行っていく。

（３）関西・大阪「和食」文化の発信

当協会は大阪の立場で関西や全国あるいは海外を視野に事業を展開しているが、その中でも大阪のブランド力向上に一貫して取り組んできた。海外からの来訪者に、大阪が永続的に魅力ある都市であるためには、都市としてのブランド力を一層、高めなければならない。

大阪の持つ大きなポテンシャルの一つ、大阪で生まれた出汁（だし）に始まる和食文化に着目し調査、発信に取り組む。その位置づけや課題を系統的に整理し直し、創造的発展への道程を探る。また、和食学^[27]への支援や国際和食フォーラムの開催などにより、世界に向けて発信する。

【Ⅲ】 伝統の進化と創造

文化は常に創造が加えられ、受け継がれていく。伝統を磨き、進化する伝統を次世代に引き継いでいくのは私たちの責任である。当協会は、コレクティブ・インパクトなどの手法により「協奏と共創」を促し、伝統の進化と創造に貢献する。

（１）東京オリンピック・パラリンピック beyond2020 プログラム関連

文化庁が掲げる Culture Nippon の文化プログラムのうち、「民間、地方公共団体主体の取り組み」に関して、関西の民間主導のプログラムを支援し、『協奏センター』としての役割を果たす。

また、具体的な取り組みの一つの例として、スコットランドのエディンバラ市が行っているような、観光を兼ねた訪日

客が大阪でパフォーマンスを披露する場を設定する事業を提案する。同市ではフェスティバルのフリンジと称して大きな経済効果を挙げている。

こうした試みを含め、2006年から開催している「大阪城サマーフェスティバル」を beyond2020 プログラム^[28]として提案し、大阪のシンボリックゾーンである大阪城エリアの劇場化に貢献する。既にこれまでも当協会は継続的な社会実験を積み重ねてきており、今後このエリアに集積する劇場やホールとの連携を強化する。そして場の設定を通じて、関西の多彩な文化を発信することができる。（例えば、世界的なアーティストと関西伝統芸能の融合や、日本トップクラスの実力を持つ高校吹奏楽とのジョイントプログラムなど）

（２）コラボレーションによるまちづくり

「水の都・大阪」のブランディングを発信するため、大川における「平成 OSAKA 天の川伝説」で川を活用した景観づくりに今後も取り組んでいく。また、例えば、平成の水の都にふさわしいシンボルアイコンの彫像を中之島東端に新しく建設するなど、水都発信のためのさまざまなアイデアを募り、市民運動につなげていくことを提案する。

（３）上方文化芸能の振興と上方伝統行事の保護・育成

大阪には個性的な人情風土のなかで生まれた、独特の上方文化芸能がある。これは民衆の中に根を下ろすと同時に、祭礼などの伝統行事に結びついている。人間の心が問い直されている今こそ、上方文化芸能の真価を再発掘して光を当てなければならない。

具体的には歌舞伎、能、文楽をはじめ、狂言、落語と上方の奥深い文化の振興、伝承と創造的発展の支援、調査、研究等を引続き推進する。また、上方の伝統行事（今宮戎神社「宝恵駕行列」、住吉大社「お田植え神事」など）保存のために共催や助成を行う。

（４）広域活動支援

当協会は西日本地区で開催する「北前船寄港地フォーラム」のアドバイザー役を務めるなど、瀬戸内海、日本海地域との結節点機能を担う。

2021年開催予定の「食博覧会・大阪」においては、関西の食文化の発展を支えた北前船の歴史的意義を生かし、寄港地由来の食材の発掘と関西の食産業とのビジネスマッチングの仲介をすることで寄港地各地の発展に貢献し、ひいては関西各地域の活性化につなげていく。

こうした取り組みは瀬戸内、日本海側の船による新たな動線の形成に寄与する効果が期待され、2015年の「北前船寄港地フォーラム in 大阪」で提案したクルーズ観光の振興にも寄与する。

【Ⅳ】アクションプログラム

グランドデザイン（第4次）中期計画の目標年次は2017～2021年とし、それに基づき5年にわたるアクションプログラムを策定する。ただし、時代の趨勢は予測しがたいものがあり、各年度計画策定時において適宜、見直しを行うローリングプランとする。

尚、2017年から2019年にかけては当協会設立35周年、明治維新150周年、日本万博記念基金事業承継5周年、上方文化芸能振興事業承継5周年、アーツサポート関西発足5周年の年を迎える。この機会をとらえて各事業の一定の成果の見える化に資する事業を行う。あわせて、日本を元気にする呼びかけを関西から発信する方策をさぐる。

5か年行程表 — アクションプログラム

	2017(平成29)	2018(平成30)	2019(平成31)	2020(平成32)	2021(平成33)
	ラグビー ワールドカップ 東京オリンピック・パラリンピック 関西・ワールドマスターズ・ゲームズ				
【助成と顕彰】	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> ◆万博記念基金事業 → 新たな方式で助成、事業評価 </div>				
◆アーツサポート関西	寄付文化普及……施策の強化、継続				
◆人材育成—アーティスト支援—	大阪文化祭賞、関西元気文化圏賞 など				
	アートストリーム、アートアッセンブリーなど				
【関西・大阪の“アラド”の発掘と発信】	<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> ◆文化庁、オリパラ、広域連合等との連携 → 文化庁ポータルサイトと協会HPとのリンク </div> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> → 関西各地域事業を集積し「イベントカレンダー」の作成 </div> <div style="background-color: #cccccc; padding: 5px;"> → 「関西文化.com」の運営参加 </div>				
◆シンポジウムの開催等による発信	関西・大阪文化力会議 → 「KANSAI*OSAKA文化力」の発行 関西国際空港での映像発信				

【V】事業の評価

機運醸成活動あるいは社会実験を重ねることにより新たな活力を誘発し地域の文化力を高める事業活動の効果指標は、必ずしも数量だけでは測りきれないため定量評価と定性評価を合わせ行う。

定量評価においては、事業遂行に関わった主催者側の人数や参加者数を当協会が主催した事業に留まらず、協奏と共創事業においても算出し、また助成事業においても助成対象事業の社会的波及効果を定量的に把握する。さらに定性的に評価し、協会全体の総合評価に加え5か年間の累計成果を評価する。

(1) 文化庁の掲げる5か年の目標に対し、関西の取組みを総合的、俯瞰的にとらえた目標値を想定

想定目標（5年間） ■ 3万件のイベント

■ 3,000万人の参加

■ 30万人の発信者（主催者側の関係者）

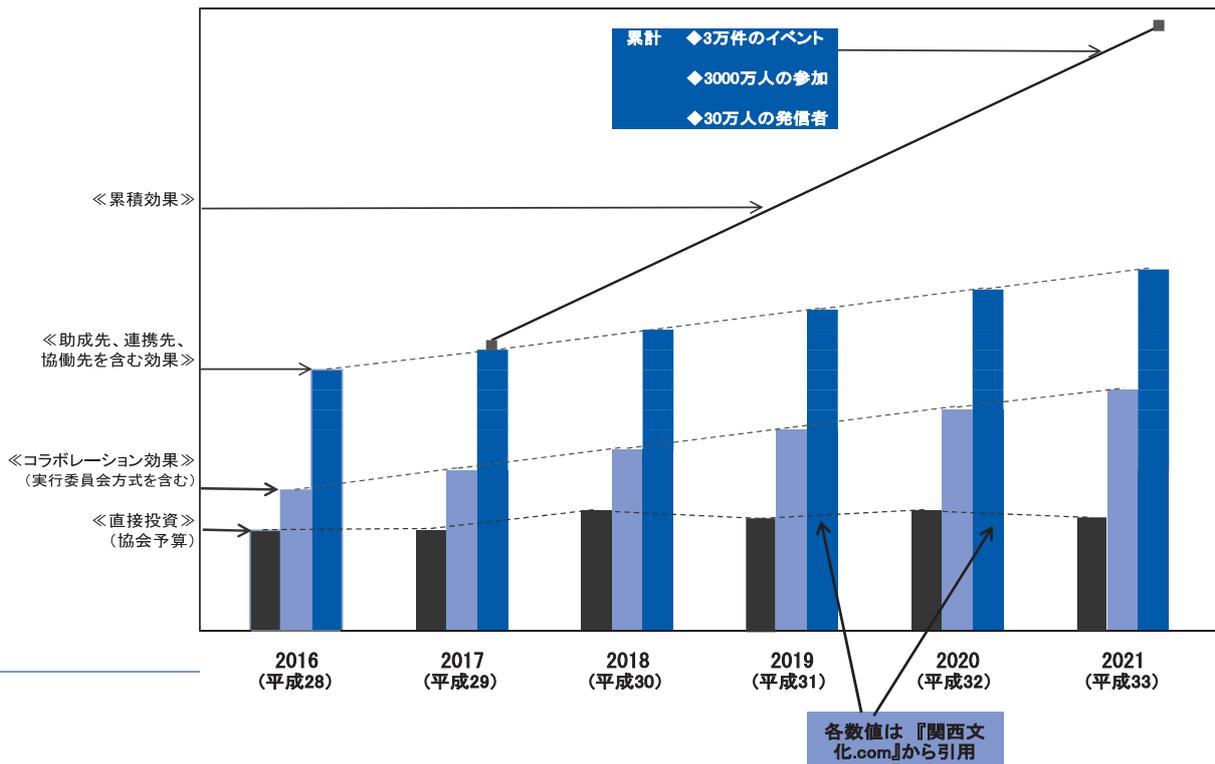
* 文化庁が掲げる2020東京オリンピック、パラリンピックを機に展開される文化プログラム。目標（20万件のイベント、5万人のアーティスト、5,000万人の参加）を関西向けにアレンジした目標数値。

* 積算要因：年間6,000件のイベント、1イベント平均10人の発信関係者、1,000人の参加者を想定

* 波及経済効果：別途算出

(2) 当協会の事業に関わる効果も含めた協奏の累積効果のイメージ

協奏と共創の成果指標（コレクティブインパクト）



- [23] 1970年日本万国博のテーマ「人類の進歩と調和」等の策定にあたり、当時、梅棹忠夫氏や小松左京氏等が参画し残したコンセプトによる日本万国博の開催意図。（以下、日本万国博覧会公式記録抜粋）
「…日本万国博が目指したものは、世界に様々な文明が多角的に共存することを理解と寛容の精神によって認め、それらの多様性の調和の中こそ進歩が望まれなければならないという「調和的発展の精神」であった。これは東洋思想の「和の心」を現代世界に呼び戻して東西を結ぶ新しい理念として発展させようとするものであった…」
- [24] アートストリーム（ART stream）は、大阪・関西を中心に活動する若手アーティストに作品発表の場と企業関係者との出会いの機会を提供するアートイベント。当協会がグランドデザイン（第3次）で提唱した「目標とする都市像」に向けた取り組みのひとつで、2002年（当時の名称は「アートビトリバープレイス」）から毎年開催されている。2011年からは絹谷幸二氏（画家・元大阪芸術大学教授）ら審査員による「大賞」や「奨励賞」の贈呈に加え、協力企業などがアーティストの活動をバックアップする「企業・ギャラリー賞」を新設。企業などに対して作品を提供する「デザインオファー権」付きの賞も設けられた。その第1回受賞者（2011年）はカラー影絵作家の河野里美さん（大阪21世紀協会賞〔当時〕）で、河野さんの作品は当協会が主催する「関西・大阪文化力会議（2012年）」のパンフレットなどに採用。
- [25] アールブリュット（Art Brut）は「生（き）の芸術」を意味するフランス語。Artは芸術、Brutはワインなどが生（き）のままであるようす。1945年に画家のジャン・デュビュッフ（仏）が考案したカテゴリーで、正規の美術教育を受けていない人が自発的に生み出した、既存の様式に影響を受けていない絵画や造形作品などを指す。障害者による芸術活動も含まれる。
- [26] アーティスト・イン・レジデンス（Artist-in-residence program）は、アーティストを招聘するにあたって、一定期間滞在しながら作品制作を行わせる事業。
- [27] 「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたのを機に、和食文化の正しい理解や日本料理の伝統を継承、発信、発展させる取組みが活発化している。その代表的なものとして、京都府立大学では平成31年度までに和食文化の高等教育機関を設置するため、平成26年に宗田好史京都府立大学副学長をセンター長とする「和食文化研究センター」を開設。食科学の研究に加え、人類学や歴史地理学などの分野から食文化の起源や日本列島各地で独自に育まれた料理術などの研究を行っている。また、熊倉功夫氏が会長を務める一般社団法人和食文化国民会議（略称：和食会議）は、「和食：日本人の伝統的な食文化-正月を例として-」のユネスコ無形文化遺産登録申請を契機に、和食文化を次世代へ継承するため平成27年2月4日に設立され、その価値を国民全体で共有する活動を展開している。
- [28] beyond2020（ビヨンド・トゥエンティ・トゥエンティ）プログラムは、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を機に、文化芸術立国の実現に向け2020年以降も国をあげて多様な芸術文化活動の発展を目指す運動。